

前例会報告

第 637 回 10 月第二例会

「ライオンズを考える例会」

2008 年 10 月 22 日 (水) 18:00～ 於：京都全日空ホテル

今夜の例会は、ライオンズクラブのあり方・とらえ方をクラブ全員で考え、クラブ歴や年齢又は性別に関係なく、自由に語り合うことを目的としたパネラートークが企画されました。

会長 L 松田の開会ゴングと、このような企画の例会はわがクラブならではの思いであり、是非活発に意見交換いただきたいと挨拶が述べられ、さっそく始められました。



パネラートーク「楽しく実のある奉仕と参加」

指導力・財務委員長 L 桶谷が司会となり、パネラーとして L 林・L 蒔田・L 山本・L 高谷が壇上に登場。進行役に L 藤井・L 阿部が指名され、楽しい雰囲気、活発なお話が始まりました。

事前のリハーサルから、パネラーと進行役との間で、熱の入ったトークの連続でした。



白熱したやり取りを抜粋しております。

○ 進行役 L 藤井より、パネラーに「結成来の出来事・思い出」をたずねました。



L 林より、当時のガバナーが苦勞され、本クラブが結成された経緯や、結成メンバー 35 名を含む 54 名にて、5 月 23 日都ホテルで初会合が行われたこと。L 蒔田より、「車イス自立の旅」、特に韓国への旅の思い出。L 山本より、市民を巻き込んだ「ふれあい奉仕祭り」の思い出。などが、話されました。



L 高谷より、26 年におけるライオンズの方針は大変変化しており、現在の国際協会会長の方針は、会員増強・LCIF・ライオンクエストに限られてきており、各クラブの奉仕活動は強要されていないと報告されました。

○ 進行役 L 阿部より、パネラーに「事業資金」についてたずねました。

L 蒔田より、「車イス自立の旅」は 1 回に 100～120 万円ほどの費用が奉仕に費やされ、メンバーの参加は個人負担であった。

L 山本より、結成来、わがクラブは運営・事業・食事の三会計で区分しており、事業と運営との会計は、明確に区分することを徹底してきたと述べられた。L 高谷より、クラブの例会参加は、30 名程度が集まりやすく、メンバー出席率が 60% で、50 名が必要となるため、会員増強が重要となると述べられた。

司会役より、メンバーに質問や一言を聞いてみました。

○ メンバーより、どうすれば新入会員を集められるでしょうかとの質問。
L高谷より、楽しく参加できる同好会を活発にさせるのも一つでしょうと回答。



○ クラブ運営は、事業費と運営費から成り立っており、年会費はクラブ運営に費やされ、ドネーションで奉仕事業が行われる。その中に合同アクトが含まれ、ドネーションが少なくなると、クラブ奉仕ができなくなる。地区奉仕のみで良いとは言えず、ドネーションの方法をもっと考えていくべきではないでしょうか。

○ YE派遣学生を受入れた際の思い出が一番記憶に残っています。



○ 会員数が減少した際に、賛助会員制度を新設し、増員を図ってきた。会員を増やす方法を検討してはどうでしょうか。

○ ドネーションは、例会参加者の4割程度で、欠席者は払っていない。メンバー間の不公平があり、ドネーションが増えないとの発言。
L山本より、ドネーションを会費に含める方法など、今後検討すべきとの提言を頂きました。

○ スポンサーの立場で考えると、入会者が本当に喜んでいるか疑問である。受け側のクラブが、しっかり入会者を導いてあげてほしい。



○ 仕事が忙しく、クラブの役をあまり受けたくない。やる気が出ないとの発言。
L蒔田より、メンバー同士が仲良くなるのが大事。クラブ外での友好があれば、協力し合えるのではとの提言をいただいた。

○ 例会は食事の場ではなく、来てよかったと思える例会を、計画委員会が事前の会合を開き、計画してほしい。
例会に出席しなければ仲良くなれない。同好会が率先して声を掛け、例会へ連れてきてほしい。



○ 最後にL桶谷より、パネラー4名に「クラブに参加してよかったこと」を一言聞いて見ました。



L林
奉仕の思い出より、メンバーと云う仲間ができたこと。

L蒔田
L林と同じく、メンバーとお付き合いができたこと

L山本
上下関係や年齢に関係なく付き合えるすばらしい会である。

L高谷
竹市さんのお兄さんが出来たこと
(笑)

以上、いろいろな意見が飛び出す有意義なパネラートークとなりました。指導力・財務委員会に感謝
記 幹事 L井尻 勤